

「見える化」は 標準化推進の前提条件

人の流動化と企業の国際化時代の情報伝達法

吉田技術士研究所 吉田弘美*

「見える化」の必要性と効果

「見える化」は情報伝達の手段であるが、言葉や文章に比べて次のような特徴がある。逆に「見える化」を進める場合は、この特徴を活かす工夫が必要であり、目的によって手段・手法および表現方法は一様ではない。

主な効果には次の事項がある

①経験の少ない（ない）人でも容易に見て理解できる

専門用語、業種によって異なる独特の表現方法、常識と称するさまざまな約束事などを知らない人にも意味が通じる。国内では人の流動化、非正規雇用社員の増加、新入社員の即戦力化などで必要性が高まっている。また、海外でモノづくりを進める場合はこの技術が成功か否かを左右するほど

*（よしだ ひろみ）：所長
〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森 4-5-5
TEL：0463-93-4594 FAX：0463-93-1216

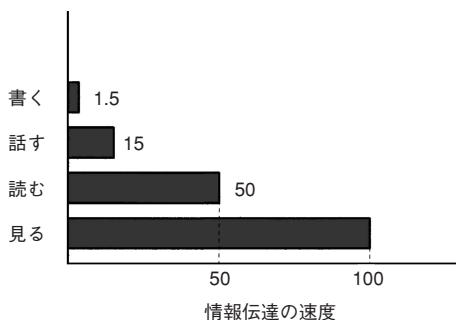


図1 情報を得る五感の比率

重要である。

②企業活動の変化

顧客のニーズ、製品の変化、生産方法、設備および情報伝達法などの変化が激しく、過去の経験や知識が通用しない面が多くなっている。東日本大震災とその後の対策、円高その他で顧客の地理的移動が多くなっている。過去に経験のない分野では、ベテランも新人であり、用語から感覚まですべてが初体験である。

③情報の発信側のイメージが受ける側に素直に伝わり、誤解や勘違いを少なくできる

実際には「伝えたはず」「わかったはず」が伝わっていなかったり、誤解されている例が非常に多く、トラブルの原因にもなりやすい。しかもそれに気がついたときは手遅れの場合が多い。

④情報伝達の合理化

情報伝達の内容が正確で、早く伝達できる。文字を読んだり話を聞いて理解するよりも、見るだけで多くの情報を一度に得られる（図1、2）。

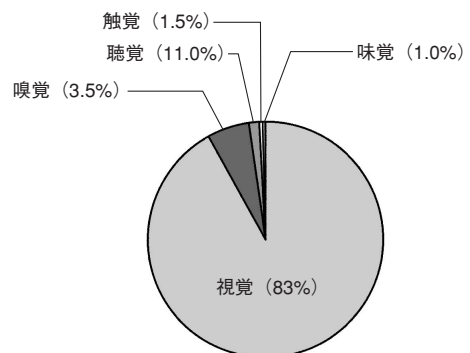


図2 見える化（ビジュアル化）の効果例